

2024 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科   | 薬業          | 科 目 区 分  | 専門分野   | 授業の方法                         | 講義            |
|---|-------------|--|--|-------------------------------|---------------|
| 科 目 名   | 衛生化学        | 必修/選択の別  | 必修   | 授業時数(単位数)                     | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年   | 2年生         | 学期及び曜時限  | 前期 火曜1時限   | 教室名                           | 4校舎501        |
| 担 当 教 員   | 足立 伸一       | 実務経験とその関連資格  | 大阪府立公衆衛生研究所(現:大阪健康安全基盤研究所)生活環境課の研究職(薬剤師)として公衆・環境衛生に関する調査研究を実施した。また、保健所職員・大学生等に対し研修・指導を行った。 |                               |               |
| 《授業科目における学習内容》  |             |  |  |                               |               |
| 衛生化学とは、ヒトの健全な生活を確保し、病気を予防するため、食品及び環境中のあらゆる物質や事象とヒトとの関わりを探求する幅広い学問分野です。日常生活に密接した分野であり、医薬品に関連する職業に就くうえにおいて、修得しておくべきと考えられる箇所に重点を置き講義を行う。また、それらの試験・検査手法等に関しては、実際に現場で採用されている方法を中心に紹介したい。 |             |  |  |                               |               |
| 《成績評価の方法と基準》  |             |  |  |                               |               |
| 期末試験70%、復習テスト20%(不定期に実施)、平常評価10%  |             |  |  |                               |               |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》   |             |  |  |                               |               |
| 教科書:シンプル衛生公衆衛生学2023年版 小山 洋(監修)辻 一郎、上島 通浩(編集) 南江堂  |             |  |  |                               |               |
| 《授業外における学習方法》   |             |  |  |                               |               |
| 授業後、教科書の該当部分及び配布資料等を読み直してください。また、授業中に学習した内容を日常生活における現状と比較し、有用・有効性を検証してみてください。   |             |  |  |                               |               |
| 《履修に当たっての留意点》   |             |  |  |                               |               |
| 衛生化学は、皆さんが今後、就かれる業務上はもちろん、日常生活をおくる上においても重要なものとなりますので、基礎からよく理解してください。教科書以外に必要な資料も配布しますので、理解を深めるため参考としてください。  |             |  |  |                               |               |
| 授業の方法   | 内 容         |  | 使用教材   | 授業以外での準備学習の具体的な内容             |               |
| 第1回   | 講義形式        | 授業を通じての到達目標<br>「衛生化学」とはどのようなものであるか、目的は何かを理解し、衛生化学の対象とするものが時代と共に変化していることを知ることができる。    | 教科書<br>配布資料  | 教科書Chapter1～4を<br>読んでおくこと     |               |
|   | 各コマにおける授業予定 | 衛生化学とは:人間集団の健康を守り、増進することを目的とする。衛生学・公衆衛生学は自然科学と社会科学が融合したような分野で、政策や法制度の基礎にもなっている。      |  |                               |               |
| 第2回   | 講義形式        | 授業を通じての到達目標<br>衛生、公衆衛生上の出来事が、法制度を作り、これによって人々の健康を保ってきたことを理解できる。                       | 教科書<br>配布資料  | 配布資料を読んでおく<br>こと              |               |
|   | 各コマにおける授業予定 | 衛生化学、衛生学、公衆衛生学の歴史1(主として薬害)。第2次大戦後の日本の発展の中で衛生、公衆衛生上の出来事が起こったこと、今後問題になりそうなことを考える。      |  |                               |               |
| 第3回   | 講義形式        | 授業を通じての到達目標<br>衛生、公衆衛生上の出来事が、法制度を作り、これによって人々の健康を保ってきたことを理解できる。                       | 教科書<br>配布資料  | 配布資料を読んでおく<br>こと              |               |
|   | 各コマにおける授業予定 | 衛生化学、衛生学、公衆衛生学の歴史2(主として公害、感染症)。第2次大戦後の日本の発展の中で衛生、公衆衛生上の出来事が起こったこと、今後問題になりそうなことを考える。  |  |                               |               |
| 第4回   | 講義形式        | 授業を通じての到達目標<br>集団の健康状態を示す様々な保健統計が公表されており、入手出来る。用いられている用語を知り、意味することを理解できる。            | 教科書<br>配布資料  | 配布資料を読んでおく<br>こと              |               |
|   | 各コマにおける授業予定 | 保健統計:現在の集団の健康状態を知るために、どのような健康指標を用いているか、どのような統計資料があるか、それらから何を知ることができるか。               |  |                               |               |
| 第5回   | 講義形式        | 授業を通じての到達目標<br>集団の健康状態を調べることや、予防策の効果を評価するために疫学の考え方は重要であり、その方法を理解できる。                 | 配付資料<br>教科書  | 教科書Chapter3-1, 4<br>をを読んでおくこと |               |
|   | 各コマにおける授業予定 | 疫学I:疫学は衛生・公衆衛生学の基礎である。集団の健康レベルを測定する、原因を解明する、予防策の効果を評価するものである。疫学調査の方法の概略と因果関係について考える。 |  |                               |               |

| 授業の方法 |      | 内 容         |  | 使用教材             | 授業以外での準備学習の具体的な内容        |
|-------|------|-------------|--|------------------|--------------------------|
| 第6回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 演習を通じて疫学の方法を理解し、結果の有効性と限界を理解できる。   | 配付資料<br>教科書      | 配布資料を読んでおくこと             |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 疫学Ⅱ: 模擬的な課題に対して、疫学調査の流れを考える。   |                  |                          |
| 第7回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 疾病の予防にはその疾病の自然史を理解することが必要であり、各ステージに応じて1~3次予防があり、そのことについて理解できる。                         | 教科書              | 教科書Chapter4-1を読んでおくこと    |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 疾病予防と健康管理: 疾病予防の原則<br>主な疾病の予防Ⅰ: 感染症の予防1  |                  |                          |
| 第8回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 各疾患の特徴と日本における現状を知り、予防方法を考えることができる。特に感染症に関して、現状を知るための情報を入力する方法を知ることができる。                | 教科書              | 教科書Chapter5-1を読んでおくこと    |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 主な疾病の予防Ⅱ: 感染症の予防2  |                  |                          |
| 第9回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 各疾患の特徴と日本における現状を知り、予防方法を考えることができる。   | 教科書              | 教科書Chapter5-2を読んでおくこと    |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 主な疾病の予防Ⅲ: 循環器疾患(高血圧、心疾患、脳血管疾患)<br>脳血管疾患には脳内出血、脳梗塞、くも膜下出血があり、脳内出血と脳梗塞は日本人の栄養の変化を反映している。 |                  |                          |
| 第10回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 各疾患の特徴と日本における現状を知り、予防方法を考えることができる。   | 教科書              | 教科書Chapter5-3を読んでおくこと    |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 主な疾病の予防Ⅳ: 糖尿病、脂質異常症(基本となるエネルギー代謝を復習し、疾患の予防と治療を考える)                                     |                  |                          |
| 第11回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 各疾患の特徴と日本における現状を知り、予防方法を考えることができる。   | 教科書              | 教科書Chapter5-3を読んでおくこと    |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 主な疾病の予防Ⅴ: 痛風、メタボリックシンドローム(メタボリックシンドロームは最近の特定健康診断で予防が強化されている)                           |                  |                          |
| 第12回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 化学物質やその他原因による発がん仕組みを理解できる。   | 配布資料             | 教科書Chapter5-4を読んでおくこと    |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 主な疾病の予防Ⅴ: がんの予防1<br>突然変異と発ガンとの関係、がん原遺伝子とがん遺伝子、発がんの多段階説                                 |                  |                          |
| 第13回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | がん予防方法として疫学調査によって効果があると考えられている10項目の勧告を理解できる。   | 教科書              | 教科書Chapter5-4を読んでおくこと    |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 主な疾病の予防Ⅵ: がんの予防2<br>がんの罹患状況、がんの一次予防に関係する要因、がんの二次予防                                     |                  |                          |
| 第14回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 慢性腎疾患の対策、アレルギー疾患の種類と予防、治療について理解できる。  | 配布資料             | 教科書Chapter5-5, 6を読んでおくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 主な疾病の予防Ⅶ: 腎疾患の予防、アレルギー疾患の予防<br>慢性腎疾患に対する食事・生活指導、主なアレルギー疾患の原因と症状                        |                  |                          |
| 第15回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1~14回の復習をすることでこれまでの授業の定着を図り理解度を向上させることができる。  | 教科書<br>これまでの配布資料 | 教科書と配布資料を最低2回は読みなおすこと    |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | これまでの総復習   |                  |                          |